

茨城県農産物販売推進東京本部情報

令和2年(2020年)8月

1 東京都中央卸売市場(2020年1-7月)の青果物取扱高について

① 全体の入荷量は約105.5万tで前年比1%減、金額は約3131億円で前年比4%増となった。

② 茨城県産の入荷量は約13.5万tで前年比1%減、金額は約367億円で前年比15%増となった。

(金額の内訳は、野菜約306億円、果実約61億円。前年同期比で野菜19%増、果実2%増、平年同期比で野菜5%増、果実2%増。)

金額が【増加】した品目(前年対比)：ばれいしょ類(185%)、こまつな(166%)、にら(153%)、ほうれんそう(149%)、日本なし類(163%)、すいか(135%)

金額が【減少】した品目(前年対比)：トマト(81%)、ぶどう類(76%)、アールスメロン(87%)

茨城県の青果物入荷量は平年比1%減(シェア12.8%)、取扱金額は同5%増(シェア11.7%)となった。

	市場計 ※2			茨城			他県のシェア(7月計)			
	1~7月計	年間計	年間比	1~7月計	年間計	年間比	千葉	北海道	栃木	
数量	2020	1,055,433		134,683	←シェア(12.8%)		12.6%	7.0%	3.4%	
	2019	1,071,469	1,916,676	55.9	135,437	222,375	60.9	12.9%	5.8%	3.6%
	(前年比)	99			99	シェア(12.6%)				
	平年値※	1,094,730	1,954,409	56.0	136,545	227,118	60.1			
	(平年比)	96			99	シェア(12.5%)				
金額	2020	313,118		36,662	←シェア(11.7%)		8.4%	3.0%	6.7%	
	2019	301,202	534,568	56.3	31,786	52,199	60.9	8.4%	3.2%	7.0%
	(前年比)	104			115	シェア(10.6%)				
	平年値※	321,857	565,288	56.9	35,013	57,490	60.9			
	(平年比)	97			105	シェア(10.9%)				

(単位：t, 百万円, %)

※1：平年値は2015-2019年の5年平均。

※2：市場計は東京都中央卸売市場における総計を表す。

《参考》
2019年実績
(1-12月計)

茨城県：金額シェア(9.8%)、数量シェア(11.6%)
千葉県：金額シェア(7.2%)、数量シェア(10.5%)
北海道：金額シェア(5.8%)、数量シェア(11.0%)
栃木県：金額シェア(6.0%)、数量シェア(3.2%)

2 東京都中央卸売市場(令和2年7月単月)の茨城県産青果物主要品目の取扱高

()内は前年対比

野菜類の入荷量は約12.7千トン(93%)、単価は395円(133%)、金額は約50億円(123%)

果実類の入荷量は約1.7千トン(107%)、単価は243円(107%)、金額は約4億円(114%)

※平年比(全国比)は、市場全体の数量、単価と、市場全体の2015-2019年同月の5年平均値との比率

	品目	数量(t)				単価(円/kg)				金額(千円)		
			前年比	平年比	平年比(全国比)		前年比	平年比	平年比(全国比)		前年比	平年比
野菜	ねぎ	1,653	75	74	86	557	154	146	139	921,649	115	109
	ピーマン	1,047	100	101	105	553	137	145	143	578,672	136	147
	ばれいしょ類	1,519	86	84	83	367	216	248	214	557,842	185	209
	とうもろこし	2,055	109	119	96	223	104	108	110	458,489	113	128
	野菜総計	12,697	93	91	95	395	133	133	120	5,011,397	123	121
果実	メロン類	429	78	82	94	325	116	118	108	139,290	91	97
	果実総計	1,649	107	102	89	243	107	99	111	401,309	114	101

(野菜)

6月上旬の梅雨入り以降曇雨天が続き、7月は気温と日照時間が平年を下回る結果となった。

ねぎは雨で収穫が進まず、一時的に数量が減り、単価高傾向で推移した。

中旬からは長雨の影響によりレタスや白菜、キャベツ等で相場が上昇した。また、ばれいしょやにんじんは数量不足が続く、前年の2倍を超える単価で推移した。

(果実)

前月までは、メロン類やもも類の数量不足により果実全体が高値傾向で推移していたが、7月は数量が回復し、単価は平年並みとなった。

メロン類は例年よりやや小玉傾向となり、数量減の単価高で推移した。

※各数値は、東京都中央卸売市場実績を基に算出